

立命館大学

・取り組み名称

世界に共通する社会課題の解決にチャレンジする「未来創造プロジェクト+R」

・取り組み概要

地球規模での自然災害の多発などを受け、社会・経済、科学技術などの分野において急激な変化が生じており、対応が求められる課題も複雑化しています。このような状況の中、立命館大学は、教育・研究・地域貢献活動を通じて、世界共通の様々な課題の解決にチャレンジし、豊かな未来社会の創造に貢献してきました。

特にこれからの社会を担う「子どもの未来（教育）」と、これからの科学技術の動向で注目される「デジタル技術の進化」の2つをテーマに、豊かな未来社会を創造します。

・未来への宣言

2030年に向けた学園のビジョンワードとして、「挑戦をもっと自由に～Challenge your mind Change our Future」を掲げています。先を見通すことが困難な時代であるからこそ、学園の学生・生徒・児童はもとより教職員、卒業生も含めて、学園構成員がそれぞれの立場から社会のあり方を考え、平和な社会の実現に向けて果敢にかつ自由に挑戦します。

・提供できるリソース

リソース	内容
人材	立命館大学（16学部・22研究科）を中心とした教員が有する専門知識の活用（教員のあらゆる分野にまたがる専門知識・研究リソースによる地球規模・地域課題の解決）
人材	立命館大学のみならず、学園に所属する学生・生徒・児童数約5万人との連携・参画（学生・生徒・児童の万博参加によるアイデア募集・社会課題の解決・PR活動の参画など）
ネットワーク	立命館大学が有する海外ネットワーク（海外協定先：世界68カ国・地域461大学・機関）などの活用
フィールド	キャンパスを社会実験および万博PRの場として提供（滋賀、京都、大阪）
情報発信・PR	学園が有する人的リソース（学生・生徒・児童によるPR活動）、環境リソース（学校・キャンパスを活用した万博PRイベントの開催）を活用した取り組み

・創出・支援したい共創チャレンジの取り組み

世界に共通する課題に対して、新しいアイデアや最先端技術などで、課題解決に率先して取り組む企業・自治体・教育機関・団体などに、大学の各キャンパスを「未来社会を体験できる『社会実験フィールド』の場」として活用いただきたいと思います。そのために、各キャンパスの地域連携課を窓口として、研究部・学生部を中心に学内関係者をつなぎ、「場」を機能させていきます。また、本学は2024年に大阪いばらきキャンパス（OIC）の新展開（情報理工学部・研究科と映像学部・研究科の移転）の動きを進めており、この2学部2研究科の学びの領域である「アート」、「IoT」、「AI」などの最先端技術も活かして、本学が掲げる2つのテーマ（「子どもの未来（教育）」と「デジタル技術の進化」）に関わる共創チャレンジを創出していきます。

・今後取り組みを展開したい地域・方法

京都・滋賀・大阪の各キャンパスで実施するイベントとの連携を進めます。特に、2015年に大阪府茨木市に開設した大阪いばらきキャンパス（OIC）は、「地域・社会連携」、「都市共創」、「アジアのゲートウェイ」をコンセプトとするキャンパスであり、開設初年度より、日頃の教育・研究成果を地域社会に還元する取り組みとして、「いばらき×立命館 DAY（来場者 1 万 3 千名）」、「Asia Week（来場者 8 千名）」の地域貢献イベントを実施してきました。

この OIC が開設当初より、大阪府・茨木市・近隣企業・市民との連携協力の中で、発展させてきた 2 つのイベントを 2021 年度から 2025 年度にかけて、大阪・関西万博のテーマを具体化する取り組みとして「未来社会を体験できる『社会実験フィールド』の場」として、事業展開します。

・共創していきたい方々

世界に共通する課題に対して、新しいアイデアや最先端技術などで、課題解決に率先して取り組む企業・自治体・教育機関・団体など。大学のキャンパスを「未来社会を体験できる『社会実験フィールド』の場」として活用してもらいたい。